

1. 事業の位置付け

事務事業名	囲基文化振興事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等	文化芸術振興基本法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託：○3セク・財団 企業 NPO その他】【協働：まちづくり財団】		
	目的・目標		事業の概要
囲基に関連した各種イベントを開催することにより、囲基文化の向上と振興が図られています。		囲基文化の向上と振興のため、各種イベントなどを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	囲基普及事業数			単位	事業
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	23	25	25		
	実績	22	20	25		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	囲基普及事業参加者数			単位	人
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	9600	9700	9800		
	実績	8714	9801	8503		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民ニーズや「文化芸術振興基本法」による規定、文化振興の安定性、継続性の確保の観点から必要性は高い。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業展開の改善を図りながら、有効性を高めていくことが必要です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の貴重な文化資源である囲基文化の普及、振興の観点から目的、対象、内容ともに妥当性は高い。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業経費は、更なるコスト削減に取り組む必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施	各種イベントなどの実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	11,890	15,378	14,422
事業費 (A)		11,890	15,378	14,422
執行率 (%)		96.95	89.08	74.87
内訳	職員 (人)	0.55	0.55	0.50
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.05
人件費 (B)		4,616	4,616	4,351
フルコスト (A+B)		16,506	19,994	18,773

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	②: 若干遅れている 「囲碁サミット」の開催に伴い、事業数を減らして対応したため。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	事業数は昨年より1事業少なかったが、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与した。	全国初となる「囲碁サミット」を開催し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、棋聖戦、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。	湘南ひらつか囲碁まつりを開催するとともに第2回囲碁サミット(尾道市)に参加し「囲碁のまちひらつか」を全国に発信できました。また、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象とした囲碁教室等、各種イベントの内容を充実することにより、囲碁文化の向上と振興に寄与できました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	B: おおむね成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業		
事業担当	社会教育部 博物館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 館事業参加市民】		
目的・目標		事業の概要	
学芸員の研究成果が特別展で公開され、市民の知的共有財産となっています。		学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数	単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館まつりの開催日数		
		平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標	138	150	150
	実績	159	157	192
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数	単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等		
		平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標	13	20	20
	実績	20	33	41
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数	単位	人
	説明・算定式	-		
		平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標	37000	37000	38000
	実績	31728	44664	38062
成果指標②	指標名	図録売上部数	単位	部
	説明・算定式	-		
		平成19年度	平成20年度	平成21年度
	目標	500	550	550
	実績	644	503	561

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	特別展は博物館の調査研究、市民と協働した調査の成果を公表し、効果を上げています。博物館まつりは、事業参加市民が博物館活動の意義を顧みる機会となり、有効です。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	市民と協働した調査成果が、より多くの市民に還元される場です。時宜に即した柔軟なテーマ設定、貴重品の展示も可能で、市民の欲求に応じています。継続により蓄積する成果物は市の情報資産として利用できます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	調査研究、とくに市民との協働による調査成果を踏まえ、地域資料とこれに関する展示、観察会、体験学習、講座等を行うことは、地域博物館の使命と合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	調査資料、写真データの整理等に館独自のシステムを構築し、展示制作に活用しています。入力作業には調査から関わる市民が自らの手で進めている領域もあり、意義のある効率化・コスト削減が行われています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		「平塚の地盤展」などの特別展の開催	「金目川展」などの特別展の開催	「相模川の水運展」などの特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	1,933	0	1,301
	一般財源	6,259	6,634	4,520
事業費 (A)		8,192	6,634	5,821
執行率 (%)		108.12	87.55	73.42
内訳	職員 (人)	0.85	0.85	1.20
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	7,133	10,028
フルコスト (A+B)		15,325	13,767	15,849

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	特別展は開館以来年3回開催しているが、平成19年度は企画展を1つ追加開催した。企画展「科博 コラボミュージアム in 平塚ー今年ほうとう年」は国立科学博物館 理工学部門と共同で実施した。「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行った。これらにより特別展事業の充実を図ることができた。	20年度は夏期特別展「こだわりの100選」展、秋期特別展「金目川物語」展、春期特別展「加藤あきさんのスケッチ帳より」展の3回開催し、「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、発表会を行いました。これらにより特別展事業の充実を図ることができました。	世界天文年に因んだ夏期特別展「ガリレオから400年」展に続き、秋期特別展「山と海を結ぶ道ー相模川・相模湾の水運ー」展、春期特別展「検証 相模国府」展の計3回を開催しました。「博物館まつり」は博物館で活動している各サークルの1年間の活動成果を展示し、実演や発表会を行い、企画展示「深海・相模湾に潜る」においても最近の成果を報告しました。展示期間中は多彩な関連行事を実施し、事業を充実することができました。
検証結果		A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実が欠かせないと考えます。	博物館が市民と協働で実施している調査活動成果を公表するために、今後も特別展事業の充実が欠かせないと考えます。	図録・ポスターのレイアウト負担などで経費を軽減しており、解説パネルも自作するなど制作現場を効率化しています。今後はこうした環境下で、一層の内容充実を図り、市民参加や展示テーマの工夫によって来場者の満足度を高める必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	魅力ある展覧会開催事業		
事業担当	社会教育部 美術館		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	'02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	観覧者	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
小中学生対象の展覧会や、知名度のある作家や映像作品展等を開催することにより、新たな観客層が増加しています。		国内外の優れた近現代美術作品に接する機会を充実するため、テーマを設定した企画展と所蔵品を活用した特集展を開催します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	企画展・特集展開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	12	13	12		
	実績	12	12	11		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	企画展・特集展観覧者数			単位	人
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	60000	80000	80000		
	実績	118839	76286	92260		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	親子連れから高齢者に至るまで多くの方々に観覧いただき、芸術・文化の振興目的が達成できました。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	多くの市民に関心を持たれる展覧会の開催と今後も市民の満足度を高められるよう事業を継続します。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市民の芸術・文化の振興という目的に合致しています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	巡回展の開催で経費節減を目指します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催	企画展、特集展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	23,241	22,996
	一般財源	42,857	30,135	20,819
事業費 (A)		42,857	53,376	43,815
執行率 (%)		93.17	106.75	87.63
内訳	職員 (人)	3.55	3.55	3.05
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.10
人件費 (B)		29,789	29,789	25,831
フルコスト (A+B)		72,646	83,165	69,646

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり -	①:予定どおり -	①:予定どおり -
	主な取組と成果	動物彫刻展、学校教材である宮沢賢治展や地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、11万人を超える大幅な観覧者増となった。	絵本作家の田島征三展や速水御舟展、地元作家の展覧会など年間12本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、7万6千人を超える観覧者数となりました。	日本を代表する絵本作家のいわさきちひろ展や日本のカー・デザイン展、所蔵品の展覧会など年間11本の展覧会を開催した結果、親子連れから高齢者まで幅広い年代層の観覧があり、9万人を超える観覧者数となりました。 * 特にいわさきちひろ展は、歴代1位・観覧者を記録し多くの方々に楽しんでいただくと共に平塚市美術館をアピールできたものと考えています。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざす。	親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。 *	親子連れから高齢者に至るまで、多くの方々が満足する展覧会を行って固定客の獲得をめざします。 *